

令和4年度 真庭市立天津小学校 学校評価(自己・学校関係者)評価書

学校長 岡崎晃治	自己評価総合所見 ・めざす児童像である「すすんで学ぶ子」「自分と人を大切にする子」「健康に生活する子」の3つの視点における重点取組を、全教職員が研究推進学力向上部・生徒指導部・健康生活部の3つの部会に分かれ、計画・実行・評価・改善を進めることにより、確実に児童の知・徳・体を高めることができた。特に、95.5%の児童が「クラスは明るい感じがする」「クラスはみんなで協力しあっていると思う」と回答しているように、児童にとって居心地のよい学校になっていることが大きな成果のひとつである。 ・今年度からスタートした地域学校協働本部事業では、生活科、家庭科、社会科、総合的な学習の時間等に地域ボランティアの力をお借りすることができ、地域とともに児童を育てる取組となった。次年度は、重点取組の一つに設定し、さらに地域とのつながりを深められるようにしていきたい。 ・今年度は、主に16項目の重点取組を進めたが、項目によっては通常行っている内容と変わらないものもあった。次年度は、項目を精選し、特に力を入れていく取組を決めることで、より本校の児童の実態にあった学校経営をしていきたい。
学校関係者評価委員	
福島侑二 今石喜文 池本正行 辻本美由喜 下山史朗 中山隆二 菅原久幸 高島利和 上山京子 西山佳孝	

評価領域	評価項目	評価指標	自己評価(5段階評価) 5 大変よい 4 よい 3 ふつう 2 あまりよくない 1 よくない			学校関係者評価(5段階評価)		
			評価方法・評価基準 (児童・保護者は肯定的評価 教員はA評価の割合)	結果	評価(自己)	結果の分析及び改善方策等	評価(関係者)	自己評価に対する意見等
すすんで学ぶ子の育成	主体的で対話的な授業づくり	①見通しをもって課題を解決することができる。 ②友達と考えを伝え合って課題を解決することができる。 ③課題に主体的に取り組むことができる。	①②③ 児アンケート 5:95%以上 4:80~95% 3:60~80% 2:30~60% 1:30%以下 教アンケート 5:90% 4:70~90% 3:50~70% 2:30~50% 1:30%以下	① 児アンケート 94.5% 教アンケート 57.1% ② 児アンケート 94% 教アンケート 57.1% ③ 児アンケート 94.4% 教アンケート 48.2%	3.3	校内研究を算数科とし、主体的で対話的な授業づくりを進めた。外部講師を招聘した研修や各担任による授業研究により、算数科の授業は概ね共通意識をもって進めることができるようになった。その結果として、見通しをもって課題解決に入ることのできる児童は増えた。しかし、自分の考えを積極的に伝えることのできる児童が少ないので、各教科の授業で、児童同士の相互指名やグループでの話し合いの場の確保などをさらに進めることで改善していきたい。	3.4	・児童のアンケートでは「ほとんど達成」という評価になっているということは、児童にとって満足度が高かったと考えられる。算数科の授業研究の成果である。 ・複数人とのグループワーク等で協議する力が不足していると約半分の教員が感じていることが次の課題となってくると考える。また、主体的にできていると感じられている教員の割合が半分を切っていることから、学習における児童の主体性や自主性が課題である。 ・算数科の知識・技能、漢字の定着とも、昨年度から継続した取組の成果である。 ・家庭学習の習慣化が図れたことは、家庭連携の望ましい結果である。 ・児童と教員のアンケートに差があるが課題解決に入ることの児童が増えたことや8割の児童は当該学年の漢字を習得したことは良いと評価する。 ・児童と教員の評価にずれがある原因を調査する必要がある。 ・課題に主体的に取り組むという意味の理解の深度を上げる必要がある。 ・まとめテストの結果は概ね良好と思えるが、1、2割のできない児童へのバックアップ、指導等の手厚い教育が必要である。 ・9割の児童が家庭学習時間の習慣がついていることは良い。
		④基礎的な知識・技能が定着している。 ⑤学習したことを応用して問題を解くことができる。	④各学期まとめテスト 算数(知識・技能) 低学年 5:95点以上 4:90~95点 3:70~90点 2:40~70点 1:40点以下 中・高学年 5:90点以上 4:80~90点 3:60~80点 2:30~60点 1:30点以下 国語(漢字) 5:90点以上 4:80~90点 3:60~80点 2:30~60点 1:30点以下 ⑤各学期まとめテスト 算数(思考・判断) 低学年 5:90点以上 4:80~90点 3:60~80点 2:30~60点 1:30点以下 中・高学年 5:85点以上 4:80~85点 3:60~80点 2:30~60点 1:30点以下	④まとめテストの結果 算数(知識・技能) 低: 90点 中・高:87点 国語(漢字) 全:81.3点 ⑤まとめテストの結果 算数(思考・判断) 低: 85点 中・高:77.8点	3.8	算数科の授業改善により、約9割の児童においては基礎的な知識・技能が身に付いたといえる。学力差の大きい学年があるので、次年度もTT指導や取り出し指導等、個に応じた支援を継続していきたい。 漢字の定着については、全学年で漢字の指導法、漢字練習ノートの使い方の統一を図り、全学年で共通の指導を行った。約8割の児童は、当該学年の漢字を習得したといえる。引き続き同じ方法で経過を見ていきたい。 算数科における応用問題を解く力については中・高学年の平均点が80点以下であった。算数科においては、式や図を結びつけて解き方の説明をするなど思考力を高める活動を充実させていきたい。また、国語科を中心に読解力を高めるための取組を進めていくことで改善を図りたい。	3.9	・家庭学習、自主学習は保護者との連携ができるように連絡帳を有効活用するなど、お互いが見える化するなど工夫をする必要がある。 ・算数科において基本的な知識・技能が身に付いてきたと思える。応用力が目標点に届いていないのでさらなる改善を進める必要がある。 ・タブレットを使い読書活動で児童が気に入りの本を見つけることができたことは、よい取組である。 ・タブレット端末による「Yomokka(よもっか)」の導入は読書活動を増進させていると思うが、保護者の視点からは、長時間のタブレット使用による視力低下を懸念する声もある。対策が必要になると考える。 ・1週間に80分以上の読書の目標時間を設定していたが、アンケート結果が他の項目と比較して低かった。学校で朝読書の時間等で60分は実施しているので、あと20分の家庭読書をどのように習慣化していくかについて見直していく必要がある。 ・好奇心を満たすための手段のひとつとして読書があると思う。そのために読書の習慣をつける取組になっているかを考える必要がある。
		⑥10分×学年+10分の家庭学習をしている。	⑥児アンケート 5:90%以上 4:80~90% 3:60~80% 2:30~60% 1:30%以下 教アンケート 5:90%以上 4:80~90% 3:50~80% 2:30~50% 1:30%以下	⑥ 児アンケート 90.3% 教アンケート 71.4%	4	約9割の児童は各学年の基準の家庭学習時間をクリアしていることから、家庭学習の習慣化は概ね図れたといえる。 自主学習の取組ませ方について課題を感じている教職員がいる。自主学習の目的や内容について、全教職員で共通理解する時間を年度当初に設け、家庭への協力を求めている。	4.1	
読書活動の推進	⑦1週間に80分以上は読書をしている。 ⑧お気に入りの本を見つけることができる。	⑦児アンケート 教アンケート 5:95%以上 4:85~95% 3:65~85% 2:35~65% 1:35%以下 ⑧児童アンケート 5:95%以上 4:85~95% 3:70~85% 2:30~75% 1:30%以下	⑦ 児アンケート 69.8% 教アンケート 100% ⑧ 児アンケート 95.7%	4.3	月・火・木・金の8:15から8:30を朝読書の時間とし、読書活動を推進した。また、ポプラ社の「よもっか」を6か月無料体験できるようにしたことで、タブレット端末を使い読書活動を行える環境を整えることができた。ほとんどの児童がお気に入りの本を見つけることができたことから、今年度の取組は十分効果があったといえる。しかし、読書時間の児童アンケートの結果は低い。学校の朝読書の時間で60分はできているので、1週間80分という評価指標をやめて、読書が好きかどうかによろって取組を進めていきたい。	4.1		

自分と人を大切に する子の育成	共生力を育む活動の推進	⑨学校・学級をよりよくするための話し合いや活動ができる。 ⑩友達に思いやりをもって接することができる。(インクルーシブ教育の視点を含む)	⑨児アンケート 教アンケート 5:90%以上 4:80~90% 3:60~80% 2:30~60% 1:30%以下 Q-Uテスト 「クラスは明るい感じがする」 「クラスはみんなで協力しあっていると思う」 5:95%以上 4:85~95% 3:65~85% 2:35~65% 1:35%以下 ⑩児アンケート 教アンケート 5:90%以上 4:80~90% 3:60~80% 2:30~60% 1:30%以下 Q-Uテスト 学校生活意欲(友達関係) 5:11点以上 4:10.5~11 3:10~10.5 2: 9~10 1: 9点以下	⑨ 児アンケート 95.4% 教アンケート 71.4% Q-Uテスト 95.5% ⑩ 児アンケート 98.8% 教アンケート 100% Q-Uテスト 10.8点	4.5	学級会の話し合い活動を中心に自治力を高める取組を推進した。また、年間を通して人権意識を高められるように、「ありがとうの木」や人権標語、人権作文等の取組を計画的に行った。児童アンケートやQ-Uテストの結果から、ほとんどの児童が、クラスは明るい、協力的であると感じていること、友達関係において学校生活に満足しているという、よい結果となっている。次年度も、学級会活動と委員会活動を中心に自治力を高める取組を推進していきたい。	4.4	・共生力を育む活動については、児童評価、教職員評価の結果からも分かるように、非常によい結果が出ており、まさしく努力が実ったと思える。 ・話し合い活動ができ、学級会、委員会とも取組の高まりを感じる。今後の継続、推進を期待している。 ・Q-Uテストの結果では、「クラスが明るく、協力的で友達関係に満足している」という児童が多い結果となっており、とても素晴らしいことである。 ・お互いを思いやって考え、行動ができるよう子供に指導している教職員の方に感謝したい。ただ、「あいさつ」については全体的にはよいが、一部残念な場面がある。その点をどのように改善していくかが課題である。 ・あいさつ運動で学校前に立ってみて、声が昨年度よりは出ていると感じられるが、集合場所などでのあいさつができていないと感じられる。明るくあいさつができる天津っ子を来年度以降もめざせるように取組を望みたい。 ・気持ちの良いあいさつをしている児童が多い。 ・道路を横断する際に、停止した車に頭をさげる姿は気持ちよい。 ・あいさつの種類が「おはよう」「さようなら」が主になりがち、大人も割とできていない。保護者も含めて改めてあいさつについて学ぶ機会も必要である。 ・家族や地域の人との、あいさつやなにげない日常会話、学校生活の話ができるような地域をめざすことができればよい。
	あいさつの推進	⑪気持ちのよいあいさつができる。	⑪児アンケート 保アンケート 教アンケート 5:90%以上 4:80~90% 3:60~80% 2:30~60% 1:30%以下	⑪ 児アンケート 94.6% 教アンケート 62.5% 保アンケート 74%	3.7	昨年度と比較し、学校での朝のあいさつは全体的に向上している。しかし、来校者へのあいさつや登下校時の地域の方へのあいさつは、十分できていないとはいえない。あいさつの大切さを各学年の発達段階に応じて学べる機会を設定していきたい。そして、引き続き地域・家庭と連携し、当たり前にあいさつのできる子を増やしていきたい。	3.6	
健康に生活する子の育成	体育授業の改善	⑫運動独自のおもしろさを味わうことができる。 ⑬「場や活動の工夫」「仲間との関わり合い」「振り返り」を大切にしている。	⑫児アンケート 教アンケート 5:90%以上 4:80~90% 3:60~80% 2:30~60% 1:30%以下 ⑬児アンケート 教アンケート 5:95%以上 4:85~95% 3:65~85% 2:35~65% 1:35%以下	⑫ 児アンケート 97.1% 教アンケート 66.7% ⑬ 児アンケート 93.6% 教アンケート 100%	4.3	1学期「水泳運動」2学期「表現運動」3学期「体づくり運動」「とび箱運動」を重点領域として、事前に教職員研修を行い、各学年で体育授業を行った。運動の苦手な子どもも楽しく運動にチャレンジできる場の工夫を行い、約97%の児童が運動のおもしろさを味わうことができた。次年度も、各学期の重点領域を設定し、さらなる授業改善を進めていきたい。	4.5	・体力、運動能力の向上につながる、楽しく運動をするという基本的な体育授業ができています。 ・多種多様な運動を行い、97%の児童が運動の面白さを体験できたことは、コロナ禍における運動不足が懸念されている中、適切な取組であったといえる。 ・休み時間に多様な運動遊びを行う姿が見られるようになったことは体育授業強化の成果である。 ・運動を行っていくには運動の楽しさを感じるということが一番大切だと思う。体育を通してそのことに触れることができるように指導していただければと切に思う。 ・外遊びの時間が増えてきていることにより、天津小の体力の底上げもできていると感じられる。握力への課題はあるものの、そこだけ着目せず、全体を伸ばすことにより課題も解決できると考える。引き続き、外遊びや体育授業の推進をお願いしたい。 ・9割の児童が睡眠時間の確保ができ、メディア時間や視聴のルールづくりなどが8割の家庭でできるようになったことは特筆すべき成果である。掃除や買い物、散歩など生活上で「動き」のある活動が以前より減ったままだと分析がある。学校や家庭で、日常に体を動かす機会を取り戻す生活習慣づくりも重要となってくる。 ・睡眠時間の確保は今後も継続すべき。視力低下の原因を探ることも必要である。 ・視力低下については、ゲーム時間の増加が原因のひとつと考えられる。今後も家庭でのメディア時間の約束事を確認していくことが大切である。 ・安全教育の推進について、普段の様子では下校時がやや問題があるが、これについては、毎日の注意喚起が必要である。不審者対応の訓練は、下校時を利用するなどの工夫があってもよい。 ・下校時の歩行の仕方に課題が見られるため、見守りや指導のできる仕組みを今後考えて取り組む必要がある。 ・下校時の安全確保への取組の工夫が必要。地域、保護者を積極的に取り込んでよいのではないかと。
	運動習慣の向上	⑭休み時間に運動遊びをしている。	⑭児アンケート 教アンケート 5:95%以上 4:85~95% 3:65~85% 2:35~65% 1:35%以下	⑭ 児アンケート 93.4% 教アンケート 85.7%	4	サッカーをして遊べる日を学年ごとで決めたので、遊びが固定していた児童がより多様な運動遊びを行う姿が見られるようになった。また、業間休みか昼休みのどちらかは必ず運動遊びを行うことを奨励していったことで、児童アンケートの結果も向上した。体力テストの結果から、握力に課題があったので、次年度は握力を高める運動遊びを推奨していきたい。	4.1	
	生活習慣の改善	⑮8~10時間の睡眠時間を確保している。	⑮児アンケート 保アンケート 5:90%以上 4:80~90% 3:60~80% 2:30~60% 1:30%以下	⑮ 児アンケート 88.2% 保アンケート 91.7%	4.5	PTAと連携した「生活習慣チェックカード」等の取組から、約9割の児童が睡眠時間の確保ができるようになった。メディア時間やメディア視聴のルールづくりなどについても、約8割の家庭できちんとできるようになっている。本校では、視力が低下している児童が増えている。次年度は視力の低下を防ぐ取組を考えていきたい。	4.3	
	安全教育の推進	⑯安全に生活できる。	⑯児アンケート 保アンケート 教アンケート 5:95%以上 4:80~95% 3:50~80% 2:35~50% 1:35%以下	⑯ 児アンケート 97.1% 保アンケート 91.7% 教アンケート 62.5%	4	危険予知・危険回避能力を高めるために、計画的に登下校指導や避難訓練を行った。児童アンケート、保護者アンケート結果から、概ね安全に生活できているといえる。下校時の歩行の仕方に課題があるので、教職員による注意喚起だけではなく、地域・保護者とともに見守り・指導のできる仕組みをつくっていきたい。	3.9	

学校関係者評価総合見
・1年間同じ目標に向かい継続することは難しいが、教職員が同じ方向を向き、年間を通して取組を行い、そして成果を出している。
・教職員の職場でのコミュニケーション、和が確実に築かれている。従って児童にとって良い環境になっている。
・前年度の反省を生かしたPDCAサイクルがうまく機能している。
・全体的に前年度以上の結果が出せていると思うが、個々に見ていくと課題も見られる。課題がしっかりと見えているので次年度に更に改善されるものと期待したい。
・クラスが明るく、協力的で友達関係、学校生活に満足している児童が多いことは良いと思う。友達関係が良いことが一番である。
・「元気な体と心」がまずは大切である。引き続き休み時間等にしっかり運動遊びを推奨してほしい。
・次年度も天津小コミュニティスクールのスローガンは「笑顔とあいさつでつながる天津っ子」とし、「子供らしく、元気で明るい楽しい生活のできる地域・学校」「あいさつで、つながる地域・学校」「自分らしさが発揮できる地域・学校」「心と体が健康な地域・学校」「コミュニケーションを大切にできる地域・学校」をより一層めざしてほしい。

学校関係者評価を受けての対応
・「笑顔とあいさつでつながる天津っ子」をスローガンに、次年度も「すすんで学ぶ子」「自分と人を大切にする子」「健康に生活する子」の各重点取組を進めていく。
・令和5年度 重点取組をつぎの内容にする。
「すすんで学ぶ子」
①主体的に学び、文章を正しく読み取ることのできる児童の育成 ②相手意識をもち、自分の考えを発信できる力の育成
③週1回の算数定着プリントによる基礎学力の向上と学期末チェックテストによる実態把握 ④月1回の補充学習による発展的な問題解決力の向上 ⑤復習・予習の習慣化 ⑥読書好きを増やす取組
「自分と人を大切にする子」
⑦自治的活動の充実 ⑧人とつながることができるあいさつの推進
「健康に生活する子」
⑨児童が運動に夢中になる体育科の授業づくり ⑩健康な姿勢づくり ⑪視力低下の防止
⑫危険予知能力・危険回避能力を高める取組